



雨宮直樹  
主任理学療法士

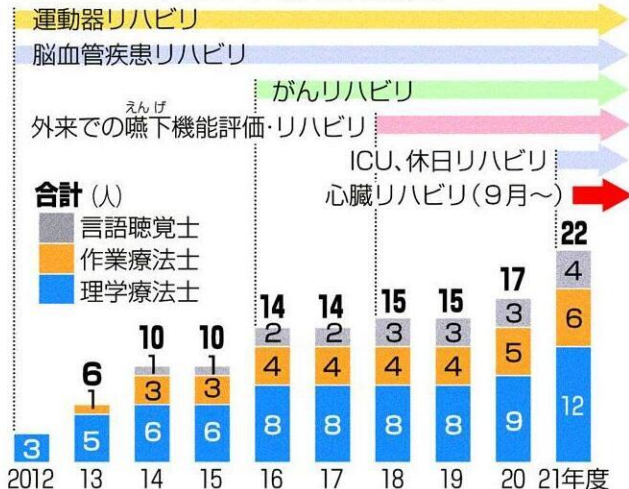
# 医療最前線 現場を支える

県立中央病院から

〈236〉

山梨県立中央病院は近年、入院患者のリハビリテーションに力を入れていく。本年度は集中治療室（ICU）の患者を対象にした早期離床のリハビリをスタートさせたほか、休日にもスタッフを配置する体制を敷いた。同院リハビリテ

## 山梨県立中央病院 リハビリテーション科 スタッフ数と事業推移



# 入院期間を短縮、虚弱防ぐ

## ICU患者 早期離床へリハビリ

院は骨折などをした患者向けの「運動器リハビリ」、脳梗塞による障害などに対応した「脳血管疾患リハビリ」を従来から展開してきた。2016年度にがん患者向けのリハビリを開始。18年度からは言語聴覚士が

医師と連携し、食べ物を飲めたりリハビリの提供を始めた。早期の機能回復を狙った取り組みで、雨宮チーフは「医師や看護師らと入念に打ち合わせを行い、安全に細心の注意を払いながら行っている」と説明。開始して半年あまりだが、未

能なりリハビリの提供を始めた。早期の機能回復を狙った取り組みで、雨宮チーフは「医師や看護師らと入念に打ち合わせを行い、安全に細心の注意を払いながら行っている」と説明。開始して半年あまりだが、未

体制の拡充に伴い、同科のスタッフは段階的に増加。12年度には理学療法士3人のみだったが、作業療法士、言語聴覚士も加わり、本年度は22人となった。20年度にリハビリを行った患者は1673人で、15年度（1084人）と比べ1.5倍以上となっている。

実施の患者よりも平均入院期間が数日間短縮するなど成果が見え始めているという。同時にスタートした休日体制も術後すぐにリハビリを始め、体力低下を防ぐ目的がある。「金曜日にはリハビリの依頼があっても、これまででは早くとも月曜日の開始になっていた」と雨宮チーフ。リハビリを継続している患者も休日に取り組みできるようになり、機能の維持・改善につながっている。

同時にスタートした休日体制も術後すぐにリハビリを始め、体力低下を防ぐ目的がある。「金曜日にはリハビリの依頼があっても、これまででは早くとも月曜日の開始になっていた」と雨宮チーフ。リハビリを継続している患者も休日に取り組みできるようになり、機能の維持・改善につながっている。